

ああ、結婚！

—婚活日記—

第5回

黒田長宏

<11月30日> 東京の婚活のほうで2人めの申し込みがあり、勘違いして私が応募した中で反応があったのかと思い、いよいよ見合いかと思ったが、応募していない相手からの申し込みだった。それはとても光栄で有難い事なのだが、実子を諦めきれない私は、その人が47歳という年齢から、妊娠出産がかなり難しい年齢だと判断して、申し訳なく残念な気持ちながら、断った。私が断られているのは既に330人を超えていると思うが、こちらから断るのはなんとも嫌な気持ちでした。しかし、それでも実子を諦めず、達成のために、めげずにチャンスに応募を続けながら待つ。

<12月3日> 繊細な話なので具体的に書きすぎないが、婚活会社から連絡がきて、私が応募していた人で、実は大きな病気をした後だけれど、それでも良いなら相手に伝えるというのが来た。とても美人であったが、そのわけがあり私の器量では支えきれないと思い、お断りした。なにかしんみりしてしまった。これで3人、この婚活で交錯しながらも、お断りになってしまった。私が断られたのは、350人は超えているにしても、3人でも申し訳ないような気もする。しかし仕方がない。

<12月10日> 久しぶりに県のほうでやっている婚活に行った。38歳までの希望を40歳までにして、独自のそこのルールに則って3人選べた。そのルールの規制緩和を担当者をお願いしたが、会議で難しいらしいのは聞いている。ネット婚活のほうはコツコツやるしかないが、断られた数が増える増える。

<12月15日> この時点でネット婚活で断られた人が730人を超えたが、それもショックだが、出会いが成立してしまうと一人につき5千円。キャンセルだと1万円のペナルティーがあるのだ

が、これだけ応募すると、成立が重なると出費が莫大になるのがまるでギャンブルのようである。しかし多数応募しないとこのざまなのだから、今日も数十人応募を加えた。しかし、よくそんなに応募できると思う。かなりの八方美人だとしか思えない。赤い糸とは一体なんなのだろうか。

<12月19日> タブレットからメールを開くと、見合い成立となっていた。パソコンのほうにパスワードを入れてあるので、急いでパソコンに向かうと、なぜか、私は日本人で子供なしの人に応募してきたのに、中国人で16歳の娘のある人からだった。間違えたのか。規則でキャンセル料金が発生するのだが、キャンセルしなかった。うかつだったのか。衝撃的である。キャンセル料金も安くはないが、値段を提示する勇気がない。提示したら衝撃度は大きいだろう。婚活会社に連絡しておいた。あと1時間ほどで銀行があくから、仕方ないがキャンセル料を振り込む。どうしてこういうことばかり起きるのか。辛いが生きていかねばならない。婚活会社には、ネットにて、プロフィールの書き直しを伝え、新規会員に何人か応募した。正直初婚の人がいいが再婚の人も応募した。

<12月19日(2)> 銀行からキャンセル料を振り込み、がっかりしながら縁側で新聞を読んでいると、茨城新聞の連載、『婚難の中で』の4回目があり、大手メーカーの26歳の若者がFacebook 連動の婚活サービスに登録したところ、2時間経過しないうちに連絡がきて、半年間で約100人とマッチングしたら14人くらいに会えたという。7回も会えた人もいるが、実際には至らず、今は職場の人と交際しているのだという。私に起きている現象とは立場も相まって、天と地ほどの差がある。私はまだ半年にはならないが、700人以上応募を断られていて、一人も会っていない。立場の違いもあるが、26歳と50歳の違いと、申し込む異性の違いもあるだろう。妙なタイミングで情報はやってくると思う。しかしどん底のような展開だが、3ヶ月もこれからあれば、変化もみられるかも知れないと思ったりしている。ある程度楽観的でないとやっていられないし、事実、50歳どころか、30代で結婚を諦めてしまっている人は多いだろうと思う。なんだかそういう話を聞いたりする。私は諦めない。わざと悪いことをしたわけではない。婚活会社からキャンセル料を都合してくれないかとさえ思っているところ。

<12月19日(3)> 婚活会社にメールだとこんがらがるので、電話したら社長が出てきて、そのケースだと成立になっていないからキャンセル料払わなくて大丈夫との事。振り込んでしまったのは、月々の会費や、成立料で調整してもらうことで了解を得た。良かった。ちょっと神経を使う金額だったのだ。今後は相手のプ

プロフィール確認には気をつけよう。コミュニケーション能力の高い社長なので助かる面もある。

<1月6日> 11月15日に老人ホームから祖母が心肺停止になり救急措置で心臓が戻り、近くの病院に運ばれて、それから50日が過ぎるが、酸素吸入と栄養は点滴からで、ほとんど目をつむっているが、目を開けることもあり、母は毎日訪問している。私も休日に病院に行き、大変である中、もうネット婚活は800人には応募したかという今日、スマホに連絡が入り、パスワードをパソコンにだけ入れているので、今度はなんだろうと開くと、わけありの人だが、それでも良ければ手続きをするかも知れないというような内容で、私はそのわけありに関しては気にしない条件だったので、会えるなら会いたい旨を伝えた。今朝は、『崖っぷち高齢独身者』(樋口康彦)という新書を少し開くと、40代で崖っぷちとタイトルにあるように、50歳ではもう無理だくらいの勢いで書かれていて衝撃を受けていたところなのであるが、平均的にはそうだろうが、平均と違うセンスの人もいるので、少ないチャンスで大事に出来れば良いなと思っているところである。

<1月13日> 14日の朝に綴っているのだが、昨日は勤務の昼休みの12時20分頃に、母の携帯に祖母の容態を尋ねたら、数値が安定していて大丈夫だとので、峠を越したかと思ひ、勤務に戻ったところ、母から連絡が来て、ほぼ1時に容態が急変して祖母が死去したとの事。90歳と大往生ではあるが、昨年11月15日に心肺停止から吹き返し、入院していた病院での死去であった。婚姻後3日が出ていってしまった元妻と面会したことがあったが、その頃はだいぶ弱っていた。どれだけ認識できていたのか。家とその存続を強く願っていた世代である。私はマッサージをしたり、闘病中も付き添えたとは思ってはいるが、離婚から離婚裁判の3年の歳月は、いまだ婚活をしている50歳の私として、祖母の期待に応えられなかったのは、悔いにしかならない。休憩時間にかけただけではあるものの、容態急変前に電話するタイミングに霊があるような気もした。告白が出来ず、ネット婚活などを行っているが、結婚出来たら良いかも知れないと思うような人が、なぜかその日は私との業務との兼ね合いで少しあちらから来たようなタイミングがあったような気もしたり、精神的にも浮揚した気も受けた。勤務は最後まで通して、もともとの休日も含めて4日間の連休を勤務先に告げたが、帰宅すると親戚が集まっていた、母が近所2人と農協の葬祭部とでほとんど取り決めをした後だった。私は喪主になるが、喪主は飾られているくらいで良いと周囲から言われた。母が一番ダントツに介護したのだから母がなれば良いと思ったが、既に取り決め、ちょうど厳冬のさなかでもあり、72歳の母でもあり、元気には見えるが、疲れるのかも知れないし、私がやる。だが、時代が変わり、農村部も核家族化して、

部落内の葬儀手伝いの簡略化、農協の人たちに葬儀の手伝いの、部落がやっていた面を委託するくらいで、勤め人の部落の人は休まなくても良いようにした。ほかの家はもっと簡略化して、香典だけのところもみられている。4連休もなかなかないが、親戚が来て、気は遣う。それが休みのようで休みではない。葬儀の翌日でもできれば休んで5連休にして、5日めはこっそり偲びたかったが、90歳という年齢もあるのだろうか、偲ぶという気でもないが、目が冴えて寝付かれず、祖母との事や、結婚出来たらどうなのだろうというような職場の看護師さんのことなどを考えていた。告白ができないというのは、アメリカでセクハラ問題がおき、フランスの女優たちが、逆に、男からのアプローチも必要面があると物議があるらしいが、複雑な気がする。もうネット婚活では800人には振られただろうか。そんな状態なのに特定のときたまに顔を合わせる人に頼めるものなのか。出来そうにない。

<1月15日> 祖母の死去から葬儀までの4日間をあと3日残しているが、昨日だけでも親戚近所の大群で疲れてしまった。日頃の私は、付き合いもせず、DVD や映画やネットで気ままに一人で休日を過ごしているの、他人たちに揉まれると頭脳が渋滞してしまう。だがそのきつい中で、考えさせられることや有難いこともあり、こうした冠婚葬祭のようなとき、特にあっては欲しくはないが、葬儀というのは、親戚近所の人にしても、当人たちは特に強く意識もせずに言ったり行ったりしているだけだろうが、これはどういう意図で言ったのかなど、どうも私は悪気にとっせう傾向もあり、自分の至らなさに詰まりそうになる。さらに世話してもらわないとなされないイベントなのだから、それが負目のような感じである。事実上は、72歳になる、親戚近所付き合いが普通にできる私の母親が支配していて、私は喪主といっても飾りのようなもので、親戚近所がそれぞれ談話している中をぼつんとしていたりするのだが、その中でもちょっと普段話が途切れていた関係が、こういう時には頼りになってくれたりと、感じさせられる。ただ、このところ家族葬などが多くなったり、個別化、密葬化しているのだという。それに、私は農家に生まれながら生産主体となるのを手放している人間のために、農家の収入が比較的潤っていた時代の最後のような残渣と、現在の経済的苦境気味のところとの狭間で、農家の多い、ベテランの親戚の感覚との微妙な関係、90歳だったという祖母の時代の継続というところでも、整理して文章化できないが、世間的にも、こうした農家的、しかし、公務員や大企業またそれに近いような集団で同じような感じが移動したのかも知れないが、そうした形態から、個別的、密葬的に、経済的事情も絡んで、悪く言えばしがらみや揉み合いのない方式を好んで来ているのかも知れない。ただ悪く感じたらそうだとすると、その裏面の良さもあるように思うから、それが文章にできないところが私の壁なのだろう。◆およそ15軒の近隣が、帳

場の手伝いをしてくれる仕組みだったのだが、実はその間に家族葬が2軒初めてのように起きたのだが、その帳場を葬儀業である農協の葬儀部門に依頼した。近所の人たちは、「改革したな」と、賛否の考えは言わずにそう語った。特殊な数少ない日なのだから勤め人をしてる人は休みをとってもそれが集落という集団の結束のような、感じ入る事が起きたかも知れないのという意見もあるかも知れないが、給料を実際もらっているところに、都合をつけるのは気が引けるものである。私自身が気楽に近所と葬儀のような場にいる気持ちのタイプではなくなってしまったためもあり、一日半、またはまる二日にもなっていた、葬儀の手伝いは業者という新たな形態に任してしまうという変化は悪くはないのではないかと今でも思う。◆農協というもともとは農家の互助会のような組織も、大企業家され、細分化され、職種の転換はあるのだろうが、葬儀担当者はまだ20代前半にみえるくらいに若いのに、送り人を仕事にしている、それもだんだん高齢化も集中していたが、だんだん少なくなるだろうし、先行き明るい部門ではないようだし、民間の葬儀社は格安で家族葬などでやってくると、私が喪主なのに、母親と近隣の相談で勝手に、従来の農協にバックアップしてもらおう方式をとったため、驚か驚かないか世間を私は知らないのだが、経費が150万円以上になるのかなというような大イベントである。経済的に困っていないほうの農家の親戚近所などの数によって、埋め合わせしたり、貯金が大きく切り崩される大仕事である。戦後農家などは貧困農家の時代から機械化農業化し、昭和の後半あたりから平成はじめころも続いていたのか、実業家のような面を出している、死んだ父親などは立派に農業収入を得ていたが、さらに土方もしていた。私から思うと段違いの働き者であったが、それを継承できている人もいるようだが、農業を親に任せて都会の勤め人になってしまっている人もいる。私の所属している集落はなぜか特殊だと思うが、親は近くの人なのだが、次男その後の人が数組流入している。その人たちが念頭にあって、手伝いは農協へ移行という改革も考えられたのだが。◆祖母はしっかりしていた時は一番、家の存続、私の結婚を望んでいたのだが、せっかく最晩年に結婚したらスピード離婚から裁判3年の間に衰えていき、それでも生きているのがやっとくらいになってしまったので、心配の言葉も出せなくなってしまった。それでも、ネット婚活を叔母にみせて騒いでいたら、「うるさいよ」と本当に後にも先にも久しぶりに祖母が発声したことがある。祖母がネット婚活をしていたのがわかっていたからかは定かではないが、叔母のほうでも高齢未婚者がいて、私が50歳未婚でこうした事を祖母の前でしては、不甲斐なさすぎて、奇跡的に怒ったのかも知れない。心肺停止からおよそ2か月、一時は自力呼吸まで回復した超人的な人だった。母はその2か月一日も欠かさずに病院まで見舞いしてしまっただけで、入院前には排泄は当然だが介護はすべて母親がしていた。親戚は祖母から解放

されて母が気が緩んでボケてしまうのではないかと心配していたが、複雑だったが、母親には内縁者がおり、大丈夫ではないかと思っている。ただ、激寒の時期なので親戚近所も高齢者が多くなり、普通に気をつけなければいけない季節でもある。◆核家族、個人主義的に気ままに生活したい現在の男女が、農家のような親戚近所との絡み合いがある家族に行くのは重く感じる人もいるかも知れないし、企業生活で同じような揉み合いの中にいるなら意外に大丈夫なのかも知れないが、私は諦めが悪いからまだ婚活を続けるが、周囲の人たちは、全国的にそうなのかも知れないが、結婚しないまま50歳を超えた人は何人も見受けられる。30代には諦めてしまっていたのかも知れないと思うが。◆まだ折り返してもいないし、今日は納棺なのだが、祖母までは母の徳で、自立力ないまま幾つかの家族への葬儀に参加してきたが、この後は母のいないところで母を見送る必要が私にはあり、母そのものの徳が、葬儀参加者はあるだろうが、私への思いということでの面では非常に下がる気がしてならず、そう思うと、他者たちを悪い人のように思っているようで、さらに私の心が悪質なのかも知れないが、葬儀はそういう面から厄介だと思ってしまう。ところが、人付き合いのできる人は、人の集まりがまるで葬儀においてでさえ楽しめるような気がしている気さえする。この場合、祖母が90歳という、長寿で祝い事と捉えても良いくらいだという緩和条件はある。これが20歳くらいの人の葬儀だと感覚は違っていただろう。細かいエピソードはまだあるが長くなりすぎた。この間、伯父叔父たちなどには、結婚は諦めていないから、良い配偶者を得て立ち直ると、空元気みたいに言った。ただやってもらっているにも関わらず、他の葬儀に私が他人に対して何かしてあげられるかという、そちらのほうの怖い気がする。その面の記憶の喪失は人間として怖いところなのだろう。

<1月18日> 15日は祖母の葬儀の喪主中で神経質になり、沢山書いてしまった。昨日葬儀を終えた。昨日の納骨の時だけ涙雨となってしまった。この間、ネット婚活で会えるかも知れないと思っていた人からキャンセルが来てしまった。きつと後から私より条件の良い人が出てきてしまったのだろう。この仕組みだとそんな気がする。久しぶりにだいたい語り合った伯父には、事情を説明すると、勤務先にいる看護師さんや介護士さんにアプローチ出来ないのかと言われたが、出来ないのである。結婚できるできないは、アプローチできるできないの差もあるかも知れない。きつとネット婚活のような800人を超えても断りばかりというのとは違う事になる気がする。従妹に、16歳違いの結婚も幾つかあるよと慰められた。

<1月20日> 重複もあるのかも知れないが、3つのネット婚活合わせて1060人もの女性に断られてしまっていた。800人どこ

るではなかった。それでも続けるが、2つ考えていることがある。1つは職場が病院なのだから女性スタッフは多く、結婚対象になるのではないかという年齢やルックスの人も幾人かいて、その人たちをみるたびに、告白というか、アプローチ出来ないなど思うこと。出来ないからネット婚活なんてしているのである。ここに1つの問題提起がある。あと1つは昨夜に結婚相談所にメールしたが、800人(だと思っていた)に応募してもだめなら、ピンポイントで、今までの応募して却下だけではない、プラスした何らかのアプローチができないかという相談を提起した。具体的宗教名など書くとマガジンに載せられないかも知れないが、極端に言えば、統一教会などは会ったばかりの人と結婚しても生涯そこそこ夫婦になってしまう場合もあるらしい。そうしたピンポイントでやれば、例えば、普通の恋愛でもいったん振られても、またアプローチすることで結婚に至る場合もある。極端なのはドラマ『101回目のプロポーズ』のようなコンセプトだろうが、今のネット婚活では一回振られたら終るのである。そこを結婚相談所に提案してみたい。

<1月21日> 県でやっている婚活のほうの通知がきて、3人ともダメだった。若い頃や条件が良い場合には良いが、私のような条件が悪い人だと、数が少なく、これで1か月費やすから、これだけでは成り立たないと思っている。ネット婚活も1000人を超えてもだめだが、3ヵ月だから、1か月で100倍のスピードが出せる。だが、ネット婚活のほうの社長に、ピンポイントでできる方法はないかと提案した。

<1月29日> 1000人応募しても駄目なのに、昼に応募したばかりの人と2時間が3時間後にメールみたら、面会承認がきてしまった。どうしたらいいか婚活会社にメールすると、都合の良い日時を3つばかり報告してくれとの事。葬式の疲れも出たのか、インフルエンザB型になってしまい、数日勤めも休んでいて、今日も名残はある。だが、これはチャンスである。もっと大事に考えないと。

<2月2日> はじめて4ヵ月か。1000人応募してようやく1人めの見合いが9日に決まった。ただ、東京の新宿まで行かねばならず、翌日は仕事である。夕方の待ち合わせである。ちよつと辛い、そうは言っていられない。15歳年下の人なので、婚活によっては、年齢制限をしてしまっているところは、15歳差などは最初から排除されてしまう。だから年齢制限が関係ない人もいるという証明になると思う。亡くなられた地井武男さんが、再婚の時に、助けて欲しいと言ったそうだが、私も同様の気持ちである。

<2月9日> 全国的なお見合いのネットワークに加入して初めての面会になった。1000人でようやくである。しかしネットを使っているのと規模の大きなお見合いの団体でようやく可能になったのかも知れない。お相手と自己紹介のような感じで2時間近くカフェで話した。またお会いしてもらえることになった。

<2月12日> 2月9日分も12日に書いたのだが、婚活会社を経由して相手の携帯電話番号を交換となり、電話番号からのショートメールというのか、それで通知した。簡単に帰ってきたが、次回に会うための連絡は通じている。年齢が15歳も違っていて私のほうのハンディキャップは大きい、頑張るしかない。この婚活会社の仕組みが私にとって大きな援助だと思う。これが無かったらもっと婚活のチャンスは無いと思う。私が婚活適齢期だったら県単位の見合いの制約があってもなんとか会えるかも知れないが、ハンディキャップが多すぎると、相手の数の多い全国的なところが有利かも知れない。それに多様な考え方の人が増えるから、年齢が離れていても会ってもらえることがあるのは証明できた。ただ、田舎の良さをアピールしたりと、そういうことはしていた。

<2月16日> 婚活のお相手と2度目にお会いしたが、とっている新聞がやたらと宣伝していて関心があったので、国立新美術館で開かれているビュールレ・コレクションに行き、ルノワールや、セザンヌやモネなどの作品をみた。プライバシーで詳しくは書けないが、場所が場所だけに奮発した面もあるが、そうでもないところもあった。それもあってか、今のところ3度目もお会いしてくれる雰囲気である。お相手を待っているときに、乃木坂駅のトイレでとても驚き、生涯で一度だけだろうが、トイレでうつ伏せに倒れている人がいて、駅員に伝えると救急を呼んであるとの事。4人きて、担架に運んでなにかしていたが、意識はないようで動きが無かった。とても倒れそうもない大柄で精悍な人で、消防士が36歳と言ったのが聞こえたのでそうなのだと思う。まさか、婚活の大事な時に、若い人がヒートショックなのか不整脈なのか倒れて意識不明になっているのに遭遇するとは、日頃は家でビデオや読書で一日を終えるのに、こんなに違う日もあるのかと驚き、倒れていた人がかわいそうで、50歳にもなってこうしている自分はいいいのかとも思ったが、精いっぱい頑張っていると思う。ただ、50歳はおろか、30代で結婚を諦めている人もいる気配で、どうしてこう難しい時代になってしまったのかと思う。2月2日に書いた、地井武男さんの話もお相手にしたが、印象に残ってくれたらどうか。対人援助学をまだ私は把握していない不届きものだと思うが、救命の4人も命に関わる対人援助だろうし、婚活の会社もれっきとした対人援助だと思う。そして婚活の相手には私を対人援助してもらいたいのだが、成就するのがとても大

変だ。お相手には最初の結婚がスピード別居から離婚裁判の最終局面まで行ったという大失敗も話してしまった。倒れている人を見たのも含めて、帰宅してこうして記録を書いているが、少し虚脱感がある。

<2月19日> 個人所有のための日記と違い、こうした公的な場での文章にはどこまでも書くには限界があると思うのだが、元妻もひどかったが、婚活する人たちはなんだかんだ一癖二癖あるのか、婚活相手が変わるのは、なぜか某サプリを契約してくれないと婚活が続けられないという。不信に思ったが、婚活を続けたので16日に契約したが、某サプリ会社から連絡が来て、住所確認というところで、受注者の名前が婚活相手と違っていたため、不信に思い、婚活相手のラインに通知したところ、その人は社長で私は社員だというのが、これは問い合わせするのを忘れたが、婚活サイトには、自営業と書いてあったので、なんだかわからない。こんな不思議な人なのだが、1000人に1人でようやく会えた人なので、私のほうでは足元を見られようが仕方ない面もあり、また会ってこの件は解説して欲しいとしたら、多分了承した模様。元妻は精神不安定だったが、今回の婚活相手は、なぜかサプリ契約にこだわり、詐欺かよとさえ思ったりする。一体私の婚活はどうなってしまうのだろうか。

<2月21日> 以前ネットから大ヒットした『電車男』なんてのがあったが、あれは匿名性が強かった面があり、私の婚活事例は匿名ではないので書きにくい面はあるし、だがお相手とトラブルが残るような事は書かないように慎重に書いているつもりだが、何事も当然かも知れないが、婚活は個別的、特殊の事情が生じ、記録しておかないと忘却してしまうようなところに大事な面がある。そんな特殊なところに普遍性が垣間見れば良いと思い、婚活は、茨城新聞が婚難として連載しているように、とても高齢化すると大変になってしまうところは主張できれば良いと思っている。昨日、メールにて、婚活相手とどうしてサプリにこだわるのかという協議をして、27日に某サプリメントの商品説明会があるからランチの後に一緒に出ることにした。ちなみにそれはAムウェイというところではない。だいたい、婚活のネットに、一緒に健康を追求してくれる人と付き合いたいと書いていた人だから、お相手の望みをかなえていると思うのだが、それを私は商売に婚活を使っているのではないかとお相手に抗議したわけである。そうしたらメールで利用してないと言う。お付き合いの条件がそれなんだと言う。私自身がこの後どうなるかさっぱりわからず、ドラマ的に面白い展開かも知れないが、本人としては苦しい状況である。だいたいそのお相手が4か月で1000人応募してようやく会ってくれた最初の人である。このお相手の次はいつになるかわからない。もう私は50歳と8か月になってしまっている。45歳以上や体質

に特徴のある人や外国人を含めたら数人私のような者でも応募が来たが、私は実子にこだわりが残り、そのこだわりがなければお会いしても良い人もいたが、残念ながらお断りせざるを得なかった。今のお相手はようやくどうして私を選択しているのかいまだにわからないのだが15歳年下で実子を得られる可能性は比較的であると思っている。だが、婚活なのに、結婚に関しては強くアプローチ出来ないと心理が働いてしまう。あまりに私の立場にハンディキャップがある。対人援助学マガジンは3か月感覚だから今回は祖母の入院と死去。6年ぶりのインフルエンザ(今回はB型)。急に現れた婚活相手とかなり激動な回になってしまった。これは私が演出してできることではもちろんない。私の人生のタイミングとして現れた。こうした出来事を記録し、読んでいただける事はありがたい。私の気持ちには、結婚はこんなに大変で、どうしてこんな大変な事が出来た人たちが離婚してしまうのかという一連の主張がある。だから書かせていただいている。個人の影響は社会からの影響から左右されると私は思っているからだ。この私の実話が『電車男』のように大ヒットして、対人援助学会に多額の潤いをもたらすとはとても思えないが、トラブルがないかぎり、婚活のお相手と再びお会いするのは27日で、締め切りを超えてしまう。続けるのは物理的に不可能でもあり、その後の展開の発表は次回にさせていただきたいと思う。ただ、まったくお相手がいらない状況からすると、どうなるかという不安の苦しみも生じるが、お相手がある状態というのは刺激はあるという事である。交際相手がいるいないとでは日々の感受性も人生もずいぶん違ってくるのだろう。